

第2回「知の拠点」整備構想検討委員会 議事録概要

1 日時 平成29年10月27日(金)14:00～16:00

2 場所 福知山市役所5階全議員協議会室

3 出席者

委 員	柴田洋三郎委員長、奥田省三職務代理、今井一雄委員、浅田博史委員、大西利明委員、野村賢治委員
策定本部	井口本部員(公立大学法人福知山公立大学理事長兼学長) 森迫本部員(国立大学法人京都工芸繊維大学副学長) 伊東本部員(福知山市副市長) 大槻本部員(福知山市高等教育施策に関する特別顧問)
福知山市	渡辺市長公室長、森田市長公室理事、大西次長、岸本課長補佐、外賀主任、大槻主査、中田囑託

※田中邦明委員は欠席

4 議題

両大学の地域連携、文理連携について

5 会議概要

次第	内容
開会挨拶	伊東副市長
【議題】 両大学の地域連携、文理連携について	【委員会としての総意】 <u>新学部として検討するなら情報系学部である。</u> (主な意見) ■これから起こるであろうと多くの人が考えている大きな変革は、新たに登場した人工知能技術やIoTの影響が色濃く反映され、その背景にはデータサイエンスの発展があると思われる。コストパフォーマンスを考えると、数学(特に統計学)、工学、情報学、経営学、知的財産権に係る法律等を相関的に学べる学部の設置が効果的ではないか。 ■福知山でしかできない、福知山だからできる大学教育は何かと考えてみたところ、長田野工業団地、綾部工業団地といった地元とのタイアップによる教育ではないか。 ■福知山公立大学を選択してもらえるような特殊性を打ち出すなら、情報系を候補とすることは理解できる。 ■北近畿地域には理工系の学部のほうがふさわしいのでは

ないかと考える。京都工芸繊維大学との文理連携を考えたとき、保健福祉系学部では連携しにくいのではないかと。

■保健福祉系学部を持つ大学は、平成のはじめは10校弱であったが、現在では私立大学を含めて265校程あり、そろそろ頭打ちの状況あるのではないかと。また、保健福祉系学部は、今後は専門職大学でカバーできる分野かもしれない。

■情報分野は急激なスピードで発展しており、これからの世の中は「情報」に関する知識は切っても切り離せない。福知山公立大学に、「情報」を学べる学部があれば、長田野工業団地等をはじめとする地元企業としても、企業の発展に寄与する可能性があるのではないかと。

■京都府北部には京都府北部福祉人材養成システムにより、舞鶴、宮津、福知山がそれぞれ役割分担をして、京都府北部における介護人材の養成に向けて取り組んでおり、介護人材養成校は既に舞鶴市にある。

■将来の人口減少社会を見据えると、企業にとって人材確保が難しくなってくる。少ない人員で効率よく製品を作れるような仕組みを構築する必要があるため、ロボットが必要となる時代がやってくるのではないかと。

■製造業者ではどうしても不良品が発生する。製造工程の見直しを検討する場合、各社ビックデータを持っていると思うが、解析まで行き着いていない状況であると推察する。そのため、不良品がなかなか減少しない。これからの時代はビックデータを分析し、良い製品を1つでも多く作ることが求められる。

■学生の通学環境で言えば、公共交通の料金が低いイメージがある。「知の拠点」整備構想を検討するにあたっては、公共交通のあり方も検討すべき。

■両大学のキャンパス整備にあたっては、財源の問題もあると思うので、優先順位をつけて取り組む必要がある。

■大学生がクラブやサークル活動を頑張っている姿は、進学を考える高校生や地域にとって福知山公立大学に対し魅力を感じる要因になるのではないかと。クラブ・サークル活動ができる環境を整備していくことも重要ではないかと。

6 議事録概要

【議題】両大学の地域連携、文理連携について

➤ 事務局から【資料】により説明。

➤ 柴田委員長から田中邦明委員の意見書を紹介。

(田中委員意見)

- 現在の京都北部の産業や長田野工業団地、綾部工業団地のニーズを考えると、従来型の工学部の設置が順当に思えるが、その莫大な費用を考えると、工学部の新設は難しいかもしれない。
- しかし、これから起こるであろうと多くの人が考えている大きな変革は、新たに登場した人工知能技術や IoT の影響が色濃く反映され、その背景にはデータサイエンスの発展があると思われる。
- コストパフォーマンスを考えると、数学(特に統計学)、工学、情報学、経営学、知的財産権に係る法律等を相関的に学べる学部の設置が効果的ではないか。企業や行政との連携をはかり、社会人の再教育カリキュラムも用意され、生きたデータを経営等に活かす新学部であってほしいと望んでいる。

(委員)

- 福知山でしかできない、福知山だからできる大学教育は何かと考えてみたところ、長田野工業団地、綾部工業団地といった地元とのタイアップによる教育ではないかと思う。
- 綾部工業団地は、平成24年度－25年度比で約18%経済成長しており、従業員数は約25%増、長田野工業団地も出荷高が約19%増、従業員数も顕著に5%程伸びている。現在、職員を募集してもなかなか集まらない状況にあるようなので、今後はいかにビッグデータをこの地域に引っ張ってきて分析するかが課題ではないか。
- 大学生数は東京、京都が断トツで多い。福知山公立大学の冠に「京都」をつけたらもっと学生への発信力があるのではと思わざるおえない数字である。そんな京都の中で福知山公立大学を選択してもらえるような特殊性を打ち出すなら、情報系を候補とすることは理解できる。
- 保健福祉系は、高齢化と少子化の2つの問題がある。保健福祉系学部を作るのであれば、高齢化問題を対象とした福祉なのか、それとも少子化問題を対象とした福祉なのかを考えなければならない。このことについてまだ議論が十分でないように思う。例えば、福知山市は、出生率が全国でトップ10に入るほど高く、この点を活かす方法があるのではないか。このように考えると、保健福祉系を学部として考えるにはもう少し分析が必要ではないか。
- 昨年度の福知山公立大学の推薦入試は、地元高校からの推薦が少なく、募集定員を満たしていないため、もっと地元の高校から推薦していただけるようになってほしい。福知山公立大学が前大学から継続するイメージを破るには時間がかかる。イメージを変えるには高校の先生が福知山公立大学に対して抱くイメージを変えないといけない。そのためには、前校のイメージを持っていない全国の学生を受け入れ、福知山公立大学の偏差値を上げていき、イメージを変えることも1つの方法である。
- また、本学のイメージを高めるためには、これからも学生をしっかりと確保しなければならない。他県からの学生と地元学生の生活経費を比較すると、他県からの学生のほうが費

用がかかるため、例えば他県からの学生の授業料を安くするのも、大学の魅力づくりの1つの方法ではないか。

(委員)

- 大学名に「京都」を入れるのも学生を惹きつける方法の1つかもしいない。

(井口本部員)

- 前身の京都創成大学は中国からの留学生が多かった。これは一種の「京都」効果だったのではないだろうか。京都ブランドはたしかにあるが、京都から見ると福知山は京都ではない。福知山は京都から特急で1時間10分かかる。
- 「京都」という名称はインターナショナルであるが、地理的な問題も考えると、本学の大学名に「京都」を冠する必要はないだろうと判断している。

(委員)

- 北近畿地域には理工系の学部のほうがふさわしいのではないかと考える。京都工芸繊維大学との文理連携を考えたとき、保健福祉系学部では連携しにくいのではないか。

(森迫本部員)

- 保健福祉系学部の文理連携を考えるなら、介護関係にはなるが、本学で介護関係事業の連携を行っている教員がいるので可能である。
- しかし、やはり情報系学部のほうが全般的な連携が可能となる。遠隔講義がより充実するとともに単位互換も積極的に進むのではないか。
- 情報系学部を持つ大学は日本海側にはあまりないので面白いのではないか。

(事務局)

- 公立大学89校のうち情報系学部を持つ大学は、公立はこだて大学、岩手県立大学、会津大学、愛知県立大学、岡山県立大学、広島市立大学、高知工科大学、長崎県立大学の8大学であり、いずれも太平洋側にある。

(委員)

- 看護師課程を持つ大学は、平成のはじめは10校弱であったが、現在では私立大学を含めて265校程ある。女子学生を集めるには効果があるのかもしれないが、そろそろ頭打ちの状況あるのではないか。
- また、保健福祉系学部は、今後は専門職大学でカバーできる分野かもしれない。

(委員)

- 保健福祉系学部は全国にたくさんあり、また、本市には市民病院附属看護学校、医師会看護高等専修学校があるため、無理して作る必要はないのではないか。
- 私は看護系学部ではなく介護系学部を考えるべきと思う。初期費用の問題もあるが、理学療法や作業療法の方向性も考えられるのではないか。

(委員)

- 本市の出生率が高い理由として2つあると考える。1つは、陸上自衛隊があり、若い隊員がたくさんいること、2つは、9号線をはじめとするロードサイドに多くの店が出店しており、従業員が増えていることではないかと推察する。
- また、本市において産学官連携を推進するにあたって、中心市街地活性化協議会のメンバーに大学生に入ってもらうのはどうか。学生にもまちづくり活動に取り組んでいただきたい。
- 現在、商工会議所には10の部会があるが、部会員を集めて大学との意見交換会を開

催したいと近々提案する予定。地元の意見、教員、学生の意見を聴いて、今後のまちづくりを考えるべきである。

(委員)

- 日本全体で考えた場合、「モノ」を作り、売ることは必要。
- 学生に「モノ」を作る楽しみ、企業の魅力を感じてもらうにはインターンシップが効果的と考える。
- 情報分野は急激なスピードで発展している。いまや小学生、中学生でも携帯電話を使用している時代であり、これからの世の中は「情報」に関する知識は切っても切り離せない。
- したがって、福知山公立大学に、「情報」を学べる学部があれば、長田野工業団地等をはじめとする地元企業としても、企業の発展に寄与する可能性があるのでは喜ばれるのではないか。

(委員)

- 高齢化社会が進展する中、介護人材は多くの地域で不足している状況にあるが、京都府北部には京都府北部福祉人材養成システムというものがあり、舞鶴、宮津、福知山がそれぞれ役割分担をして、京都府北部における介護人材の養成に向けて取り組んでいる。介護人材養成校は既に舞鶴市にあることを踏まえて、保健福祉系学部を設置する必要があるかどうかを議論しなければならないのではないか。

(委員)

- 京都府内に看護系人材養成校はどれくらいあるのか。

(事務局)

- 資料17頁にあるように、京都府内には、4年制大学、専修学校、高等学校、准看護師養成所を含めて30校の看護系人材養成校がある。なお、本市では、正看護師(30名)を養成する市立福知山市民病院附属看護学校、准看護師(25名)を養成する福知山医師会看護高等専修学校の2校がある。

(委員)

- 地域連携施策として取り組まれている「まちかどキャンパス」とはどのような取り組みか。また、その他地域連携の取り組みは。

(井口本部員)

- 本学の特色の1つが「地域協働型教育研究」である。北近畿地域をキャンパスに住民の方々と協働し、現場で学ぶという授業形態をとっている。
- 地域との連携で言えば、現在、三和地域、夜久野地域、大江地域の各地域連絡協議会と包括協定を締結しており、それぞれの地域の住民と触れ合う中で、課題を発見・分析し、課題解決策を導いていくという実践教育に取り組んでいる。
- また、本学、京都工芸繊維大学、兵庫県立大学、北近畿地域の様々な企業・各種団体と北近畿地域の地域課題について検討し、シンクタンク的な機能から提言を行うことを目的とした「北近畿地域連携会議」を組織している。
- その他、京都北都信用金庫、但馬信用金庫とも協定を締結している。学生のインターンシップだけでなく、場合によっては信用金庫から講義に来てもらいたいと考えている。
- 福知山市議会とも個別課題について相談・助言を行うという協力関係をとっており、議会の政策提言に対する助言や学生の議会体験といった取り組みを行っている。

- まちかどキャンパスは、京都工芸繊維大学との協働により取り組んでおり、森迫本部員から御紹介させていただく。
- このように本学では様々な地域連携の取組みを行っているが、大学の思いと地域の思いを埋めるにはまだまだ時間がかかると思っている。
- 例えば、地域からの要請で、地域の祭りに参加し、神輿を担ぐことがあるが、これだけでは労働力の提供に過ぎない。地域に入るにしても、そこにどのような教育の要素があるのか、そこから何を学ぶかを考えなければならない。人手が足りないから地域行事に参加してほしいということでは大学教育にはならない。このことを地域にも理解してもらう必要がある。つまり、地域連携を推進していくにあたっては、大学と地域の両方が成長していかなければならない。これが、開学1年半を経過した段階での感想である。

(森迫本部員)

- 現在、福知山公立大学と共同して、福知山市中心市街地の空き家1棟を活用し、大学講義等を行う「まちかどキャンパス事業」に取り組んでいる。
- 本学が、まちかどキャンパスの調査設計を担当しており、今年度中に竣工予定。
- しかし、1軒の空き家のみを「まちかどキャンパス」として活用するのではもったいないので、そのアーケード通り一帯の空き家等を活用して「まちなみキャンパス」を作ってはどうかと福知山市に提言している。
- 「まちなみキャンパス」の中に教員や生徒が生活できる空間を作れば、そのアーケード通りに行けば常に学生がいる賑わいが創出され、中心市街地の活性化にもつながり、全国でも例のない活動になるのではないか。

(柴田委員長)

- ここまでの議論では、情報系という意見が多いが、委員会としての方向性はいかがか。

(全委員)

- 新学部として検討するなら情報系学部で異議なし。

(柴田委員長)

- 北近畿地域にとって求める人材像は。

(委員)

- 将来の人口減少社会を見据えると、企業にとって人材確保が難しくなってくる。製造業者で言えば、人材が少なくなってくる中で、「モノ」を作らなければならない。そうになると、少ない人員で効率よく製品を作れるような仕組みを構築する必要があるため、ロボットが必要となる時代がやってくるのではないか。
- 製造業者ではどうしても不良品が発生する。製造工程の見直しを検討する場合、各社ビックデータを持っていると思うが、解析まで行き着いていない状況であると推察する。そのため、不良品がなかなか減少しない。これからの時代はビックデータを分析し、良い製品を1つでも多く作ることが求められる。

(柴田委員長)

- 情報系学部を設置する場合の進学ニーズは。

(井口本部員)

- 学生の通学できる範囲は福知山市内のみ。丹後や但馬の学生が本学に入学した場合は、多くの者は下宿を選択する。そうになると、同じ下宿するのであれば、京都や大阪といった都会の大学を選択する。

- さらには福知山の家賃は京都市並に高く、学生の生活を圧迫している。学生を確保するためには、住宅支援についての手立てが必要。
- 現在は、全国の多くの都道府県から進学いただいている傾向にあるが、いつまでも続くとは限らない。
- 全国の学生が本学に入学しているが、大都会から来ているわけではなく、学生の多くは地方の田舎出身である。
- 彼・彼女らの地元で公立大学ができれば、地元の公立大学を選択される可能性が高いため、志願が少なくなるのではないかという危機感を持っている。
- 今回新たに学部を設置し、2学部制にすることを検討している理由は、地元高校生の進路の選択肢を拡大するためである。現在の地域経営学部だけでは地元高校生の進学ニーズを満たすことは難しい。理系の学問を学びたい学生もこの地域にはたくさんいる。理系学部を設置し、理系学生を受け入れられるようにしたい。

(委員)

- 資料22頁「福知山公立大学 2017年度入試状況」において、京都府中丹地域の一般入試の合格者が志願者16人のうち1人しかいないのは何故か。

(井口本部員)

- 単純に入試における点数が合格点に届かなかったためである。しかし、この地域の学力は低いわけではない。各高校の学力の高い生徒が受験すれば結果は変わっていたであろう。要するに、地元の高校の本学に対する評価は未だに低いのではないかということである。

(森迫本部員)

- 京都府北部は理系の大学に進学するというイメージがない。しかし、徐々にではあるが理系に進学する学生が増えてきているように感じる。
- 福知山市は、長田野工業団地など多くの企業が集積しており、IT系の拠点となる可能性を秘めている地域であるため、本学において理系人材を養成したい。

(委員)

- 学生の通学環境で言えば、公共交通の料金が安いイメージがある。丹後地域では200円バスを運行させることで大きな効果が出てきている。「知の拠点」整備構想を検討するにあたっては、公共交通のあり方も検討すべき。

(大学事務局)

- 本学の学生の通学状況であるが、本学の学生の14%は実家、86%は下宿している。
- 自動車通学者で最も遠くから来ている学生は兵庫県香美町からで、約100分。
- 鉄道通学者で最も遠くから来ている学生は兵庫県多可郡多可町からで、約165分。その他にも堺市から通学している学生もいる。

(委員)

- 資料12頁「福知山公立大・京都工繊大 キャンパス周辺図」を見ると、今後、新学部を設置し、学生数が増加した場合、現在の施設だけで収容できるのか。また、今の施設だけで、在学生に十分な教育を行えているのか。

(井口本部員)

- 本学には、大学として通常であれば備えているであろう施設がない。例えば、体育館や講堂がない。隣接地に成美学園が所有する体育館があるが、空いていなければ使用で

きない。

- 現在クラブ・サークルが20ほどできたが、クラブ・サークルボックスもない。
- 当然、新学部を作るのであれば現在の大学施設だけでは学生を収容することは難しい。
- キャンパスの中央に旧成美大学短期大学部の校舎であった3号館がある。成美大学（旧京都創成大学）の時代は、3号館も大学施設として位置づけられていたと思うが、現在は成美学園の所有施設であるため、使用できない。福知山公立大学のキャンパス内に大学外の施設があることは普通の状況ではない。

(委員)

- 資料11頁「キャンパス整備において検討すべき施設等の機能」において、両大学のキャンパス整備にあたって必要な機能が挙げられているが、財源の問題もあると思うので、優先順位をつけて取り組む必要があると思う。
- 「両大学の教育研究のための施設・設備等」、「両大学の交流のための施設・設備等」、「両大学の福利厚生のための施設・設備等」については全てを同時に行うことはできないと推察するので、必要性を精査し、優先順位をつけたうえで取り組まなければならないと思うが、「両大学の学生・教職員宿舎等」、「両大学のキャンパスへのアクセス等」は最初の3つと性格が異なるため、並行して取り組めるのではないか。

(伊東本部員)

- 京都府丹後地域の高校から本学に通学しようと思うと、時間と交通費がかなりかかるため、例えば交通費を助成いただける制度を創設してもらえよう各市町にお願いしなければならないと考えている。
- 井口本部員から意見があったように、同じ通学費、下宿代を払うのであれば都会の大学を選択する学生が少なくない。これを回避し、本学に入学してもらうためには大学の魅力化が喫緊の課題である。
- 住宅支援の施策としては、シェアハウスの活用が考えられる。旧市街地の空き家等をシェアハウスにすることにより、家賃の低廉化を図れるとともに、旧市街地の活性化にもつながる。
- また、本市の市営住宅が建替時期に来ており、中高層住宅化を進めている。これにより空いた土地を有効活用し、学生等の宿舎を設置できないか検討したいと考えている。

(委員)

- 大学生がクラブやサークル活動を頑張っている姿は、進学を考える高校生や地域にとって福知山公立大学に対し魅力を感じる要因になるのではないか。
- 福知山はスポーツが盛んな町であるため、学生時代に特に運動系のクラブに所属している学生を採用したいと思う企業も少なくないと思う。
- クラブ・サークル活動ができる環境を整備していくことも重要ではないか。

(柴田委員長)

- 大学のクラブ・サークル施設を市民に開放する取組みは効果的である。

(井口本部員)

- 本学の図書館は、小学生・中学生・高校生に広く開放しており、このような大学附属図書館はあまりなく、本学の特色であると思っている。
- また、学内にいる北近畿地域連携センターには、市民交流スペースを設けている。是非

活用いただきたい。

7 その他

特に意見なし

8 閉会

閉会挨拶・・・渡辺市長公室長

以上